

新春法話「仏様が説くおもてなし」

明けましておめでとうございます。

ようこそお地藏さんのお寺正光寺初詣にお参りくださりありがとうございます。

昨年は九月に二〇二〇年夏季オリンピックが東京に決定したことで、私たちの社会、特に子供達の将来に大きな夢と希望をもたらすこととなりました。招致の背景には日本の経済力、安全性など種々の要因が挙げられますが、その中におもてなしの文化に対する評価がありました。

観光立国であるフランスもおもてなし文化を高く評価しています。観光立国といってもフランス人は外国人に対して無関心で、観光客に冷たいという悪い印象を受けているそうです。フランスの観光局は悪い印象を払拭し、外国人に快く滞在してもらうために、おもてなし文化を研究したそうです。結果、おもてなし文化を持つ日本人がどうしたら心地よくフランス国内を観光できるかを模索すれば、世界の人々の心に通じることになる結論付け、実践しているようです。

さて、「おもてなし」という言葉は、「もてなす」の丁寧な言い方で、茶道の世界から生まれた言葉だそうです。茶道では、「和敬」といって主人と客人の心が和合し互いに敬う気持ちを大切にします。相手を思い自らの行動や言葉でもって快い気持ちにしてあげること、それが「おもてなし」なのです。相手を思う気持ち「おもてなし」は、仏様の慈しみの心に通じるものがあります。

そこで慈しみの心を育てるに「無財の七施(むざいのしちせ)」という教えがあります。この教えは雑宝蔵經に説かれていますので簡単に紹介します。

『無財の七施』

一、眼 施(げんせ) 目は口ほどに物を言うということわざがあるように、自らの心を映し出すので、あたたかい眼差しをもって接しましょう。

二、和顔悦色施(わげんえつじきせ) 柔和な笑顔で周りの人を明るくしましょう。

三、言辞施(ごんじせ) 口中の斧、言葉で人を深く傷つけることなく優しい言葉を使いましょう。

四、身 施(しんせ) 人を敬い、身体を使って相手が喜ぶことをしましょう。

五、心 施(しんせ) 悪を慎み、善を尊ぶ心構えを持って行動しましょう。

六、床座施(しょうざせ) 相手の立場を理解し譲り合う気持ちを持ちましょう。

七、房舎施(ぼうじゃせ) 相手の労苦に感謝したわる気持ちを持ちましょう。

そしてこのお経には、七施を行うことで財物損なわずして大いなる果報が得られると説かれています。相手を思ってお金や物をあげることも大事ですが、自らの行動や言葉を通じて優しい心を伝えることの大切さを教えてくれます。これらの七施は誰にでもできる簡単な事です。全部が無理でも一つでも多く日常の生活で実践していただければ、自らの心の中に慈しみに満ちた仏心が根付くことでしょう。

お釈迦様の教えに「諸法無我」という教えがあります。この世の中は自分一人で生きて行くのではなく様々な命に支えられて生かされているという教えですが、互いに助け合い思いやりに満ちた世界が実現すれば、まさしくこの世は仏の浄土となるでしょう。

「おもてなし」という言葉だけが一人歩きしないよう、言葉に込められた世界が認める日本人の伝統的な精神を大切にし、よりよい社会の実現のため実践していこうではありませんか。

本年も皆様にとりまして、幸多き年になりますことご祈念申し上げます。

合掌

平成二十六年 甲午 元旦

延命山正光寺 住職 高野 隆 晃